

尼崎市子どもの生活に関する実態調査
結果報告書
(概要版)

平成30年3月
尼崎市

目 次

I	調査の概要と分析の視点	
	1. 調査の概要	1
	2. 分析の視点	2
II	子ども調査の結果	
	普段の生活	4
	学習と習い事	6
	希望する学歴	8
	自己肯定感	9
III	保護者調査の結果	
	子どもとの関わり、子どもへの関心と期待	10
	保護者自身のこと	12
	家庭の経済状況	15
IV	分析結果の考察	18

I 調査の概要と分析の視点

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、子どもの生活と意識の実態、家庭の状況や子どもをめぐる考え方について現状を把握し、必要な方策の検討に資する基礎資料を得るためのものです。本市の子どもの状況をふまえて、とりわけ、貧困や様々な困難な状況が子どもの生活や意識にどのように関連しているのかに注目し、有効な支援のあり方について示唆を得ることを調査の目的としています。

(2) 調査方法

尼崎市立学校に在籍する子ども（小学校5年生と中学校2年生の全員）とその保護者を対象にアンケート調査票等を市内の全ての公立小・中学校の学級で子どもに配布し、家庭に持ち帰って回答してもらったうえで、郵送により回収するという方法で実施しました。

子ども票、保護者票ともに無記名、自記式で子ども票は児童生徒に、保護者票は主な保護者に記入してもらいました。

(3) 調査対象者

尼崎市立学校に在籍する全ての小学校5年生3,497人とその保護者、全ての中学校2年生3,181人とその保護者の、合わせて13,356人です。

(4) 調査期間

平成29年9月4日（月）～平成29年9月29日（金）

(5) 回収結果

調査票の配布数・回収数・回収率等

	配布数		回収数		回収率	
小学校5年生	子ども	3497	子ども	1,521	子ども	43.49%
	保護者	3497	保護者	1,522	保護者	43.52%
		3497	親子ペア	1,519		43.44%
中学校2年生	子ども	3181	子ども	1,087	子ども	34.17%
	保護者	3181	保護者	1,089	保護者	34.23%
		3181	親子ペア	1,087		34.17%
小学校5年生か中学生2年生か不明			保護者	5		
合計	子ども	6678	子ども	2,608	子ども	39.05%
	保護者	6678	保護者	2,616	保護者	39.17%
		6678	親子ペア	2,606		39.02%

(6) 調査の実施主体

本調査は尼崎市の委託を受けて、武庫川女子大学文学部の矢野裕俊研究室が中心となって研究チームを編成し、尼崎市と協議しつつ、調査票の配布につき小・中学校の協力を得て行ったものです。研究チームの構成と主な役割は次の通りです。

代表者	矢野裕俊（武庫川女子大学教授）	調査の総括・子ども調査結果の分析と分析結果の考察
メンバー	梶川裕司（京都外国語大学教授）	統計処理・保護者調査結果の分析
	古瀬麗（武庫川女子大学職員）	調査票の作成および報告書の編集・校正
	南有香（武庫川女子大学教務助手）	調査票の作成および報告書の編集・校正
	堀美和（武庫川女子大学教務助手）	報告書の編集・校正

2. 分析の視点

<表記方法について>

回答結果の割合（％で表示）は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点第2位で四捨五入したものです。

図に付記された N (Number of case) は集計対象者総数（対象者を限定している場合には、その条件に該当する人の数）を表しています。

本文中の設定やその選択肢は簡略化して表記している場合があります。

なお、報告書概要版では、問や記述の順序などが報告書本編とは異なっています。

<分析の視点>

(1) 尼崎市の子ども（小学生および中学生）および保護者のそれぞれの回答結果の全体的な状況に注目し、それから見える特徴を明らかにします。概要版では、調査結果のうち、特に注目すべき事項に絞って掲載しています。

(2) 保護者の回答結果により得られた家庭の経済的な状況と子どもの回答によって得られた生活や学習の状況との関連を分析するために国民生活基礎調査における相対的貧困水準以下の世帯の算出方法に準拠して、相対的貧困層とそうでない群（以下、「それ以外」と表記）の2群に分けて、それぞれの群を小学生、中学生別に比較して分析します。

(3) 世帯類型の違いに注目して、ひとり親世帯の回答結果に見られる傾向や特徴を父親・母親がいる世帯（以下、「ふたり親世帯」と表記）の回答結果と対比しつつ分析します。

調査対象の相対的貧困世帯率

	調査対象保護者数 (世帯数)	相対的貧困世帯数	相対的貧困率
小学生調査	1365	123	9.0%
中学生調査	967	109	11.3%
合計	2332	232	9.9%

注) 上記、調査対象保護者数は、子どもの小・中別がわかり、収入金額に回答があったもの

子ども向け調査票項目	小5	中2	保護者向け調査票項目	
平日の就寝時刻	問1	問1	回答者の属性	問1
平日の睡眠時間	問2	問2	回答者の年齢	問2
週あたりの朝食を食べる頻度	問3	問3	保護者の婚姻関係	問3
週あたりの夕食を食べる頻度	問4	問4	家族の人数（全員）	問4
歯みがきの頻度	問5	問5	家族の人数（子どものみ）	
風呂に入る頻度	問6	問6	家族構成	問5(1)(2)
平日の学校外での学習時間	問7	問7	介護・介助を必要とする家族の有無	問6
平日のテレビ視聴とゲームをする時間	問8	問8	居住形態	問7
平日の携帯電話・スマートフォンを使う時間	問9	問9	保護者の最終学歴	問8
家族と一緒にすること	問10	問10	母親の有無	問9(1)
学校に遅刻する頻度	問11	問11	母親の就業形態	
学校の勉強の理解度	問12	問12	父親の有無	問9(2)
平日の部活動の頻度（中学生のみ）	—	問13	父親の就業形態	
土・日の部活動の頻度（中学生のみ）	—	問14	父母以外の家計維持者の有無	問9(3)
楽しいとき	問13	問15	父母以外の家計維持者の就業形態	
学校の放課後学習への参加	問14	問16	子どものためにすること（家事）	問10
放課後に過ごす場所(自分の家以外)	問15	問17	門限の有無	問11
毎日の生活で楽しいと思うこと	問16	問18	過去1年間の行事等への参加	問12
1ヵ月のおこづかいの金額	問17	問19	子どもと一緒にすること	問13
持っているもの	問18	問20	学校外での習い事	問14
教科書やマンガ以外の本	①	①	子どもの進学についての希望	問15(1)
ゲーム機	②	②	子どもが希望どおり進学できると思うか	問15(2)
自転車	③	③	希望どおり進学できないと思う理由	問15(3)
落ち着いて勉強できる場所	④	④	子どもに関する考え	問16
携帯電話・スマートフォン	⑤	⑤	子どものむし歯の有無	問17(1)
門限	問19	問21	むし歯への対応	問17(2)
学校外での習い事	問20	問22	初めて親となった年齢	問18
悩みや心配ごと、困っていること	問21	問23	悩み事の相談相手	問19
悩みや心配ごとの相談相手	問22	問24	緊急時に子どもを預かってくれる人の有無	問20
将来、どの学校段階まで進学したいか	問23	問25	近くに親が住んでいるか	問21
自分のこと	問24	問26	自分の心の状態	問22(1~4)
自分にはよいところがある	①	①	自分の心身で気になること	問23
自分には将来の夢や目標がある	②	②	昨年1年間の家計	問24(1)
がんばれば、いいことがある	③	③	子どものための将来のための貯蓄	問24(2)
家族は自分を大切にしてくれている	④	④	生活費用の稼ぎ手	問25
自分は友だちから好かれている	⑤	⑤	家計上の困難の経験(昨年1年間)	問26
大人は信用できる	⑥	⑥	公的扶助・養育費・年金の受給	問27
—			家族全員の収入合計額(昨年1年間)	問28

（ゴシック体は、概要版で取り上げた質問項目です。）

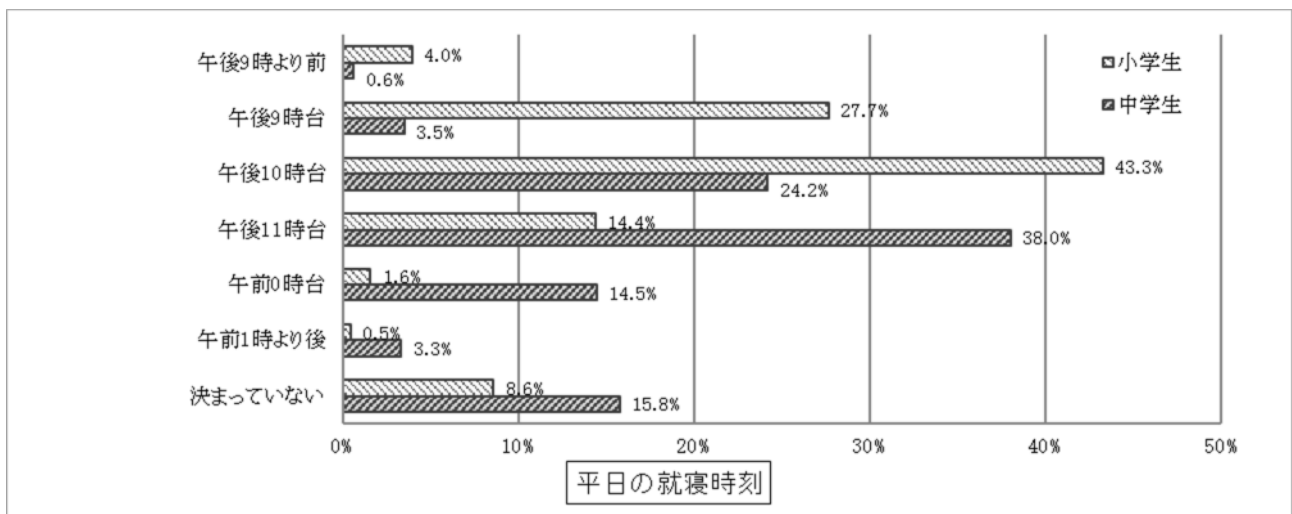
II 子ども調査の結果

普段の生活

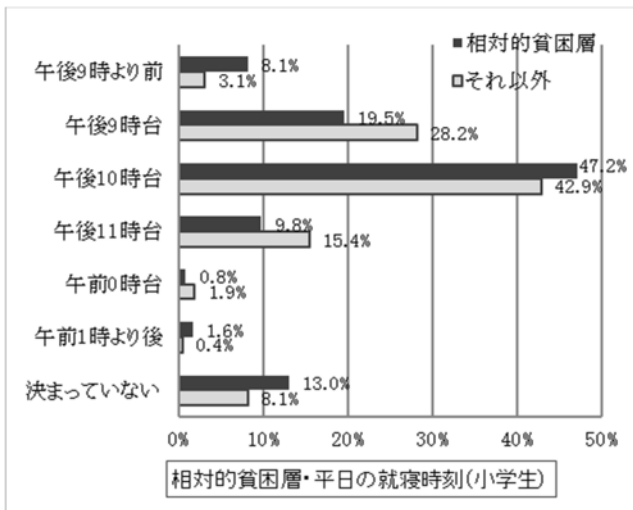
小学生、中学生ともに、就寝時刻、朝食などの基本的な生活習慣の面で特に大きな問題は見られませんが、中学生では就寝時刻が遅く、「決まっていない」との回答も多いことがわかります。その傾向は相対的貧困層でよりはっきりと表れています。

携帯電話やスマートフォンを使う時間は、特に中学生では長くなっており、相対的貧困層およびひとり親世帯において、その傾向はより強くなっています。

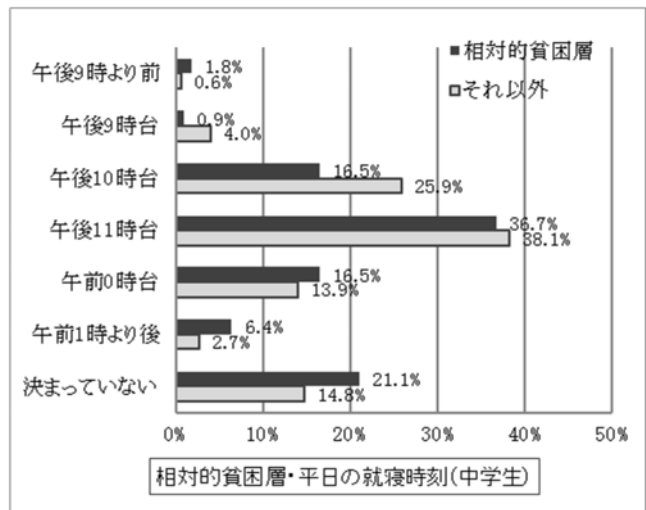
■ あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、何時ごろに寝ていますか。[本編 p. 10. 問 1]



(小学生 N=1513 中学生 N=1078)

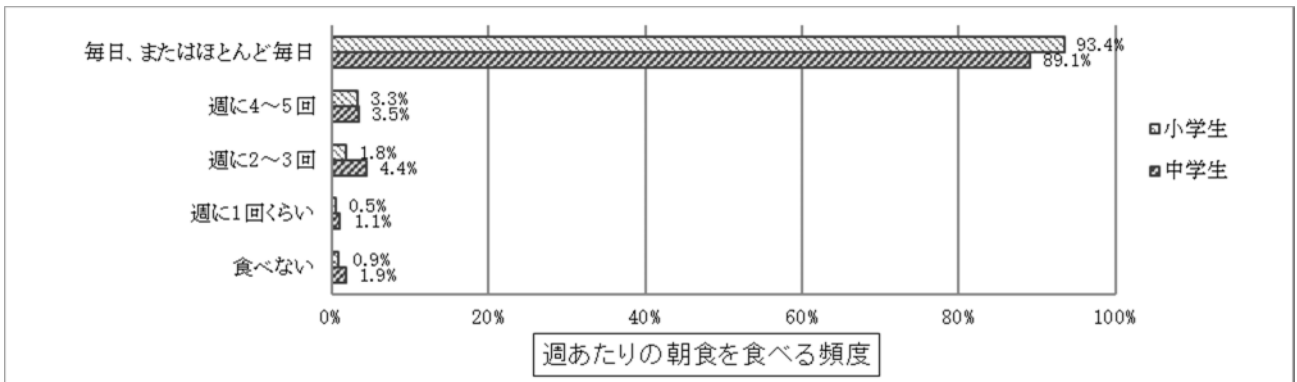


(相対的貧困層 N=123 それ以外 N=1232)



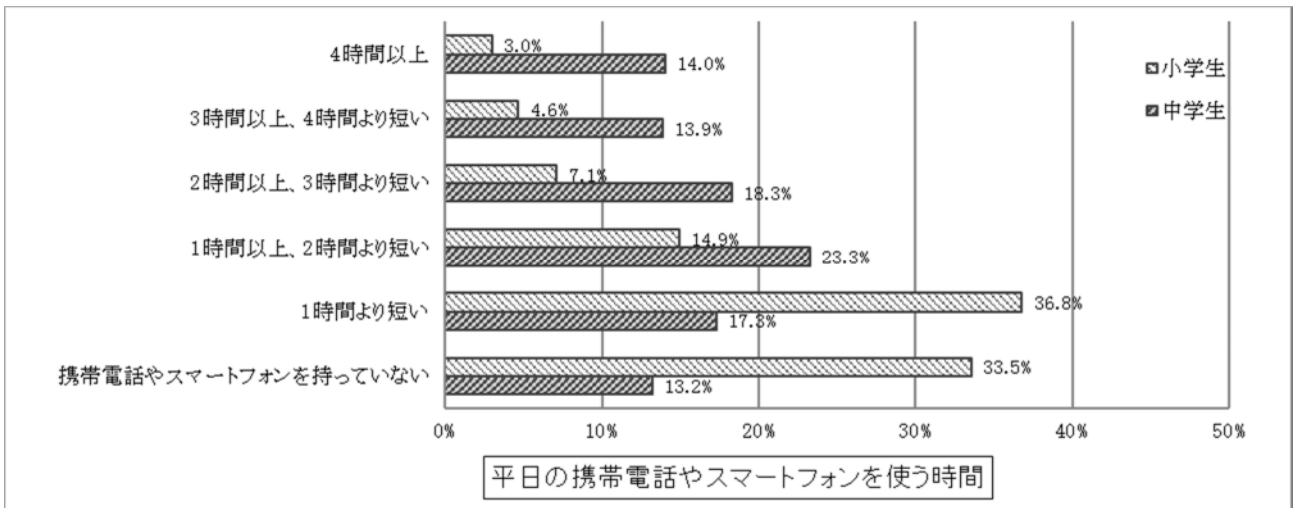
(相対的貧困層 N=109 それ以外 N=847)

■ あなたは、週にどのくらい朝食を食べていますか。[本編 p.12. 問 3-(1)]

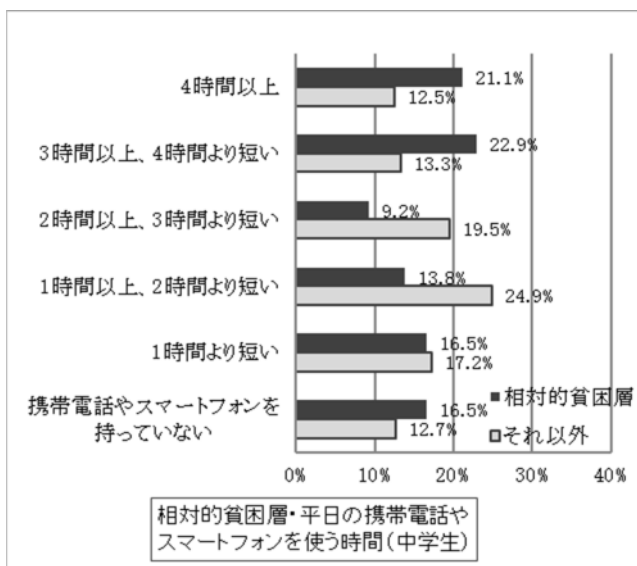


(小学生 N=1515 中学生 N=1081)

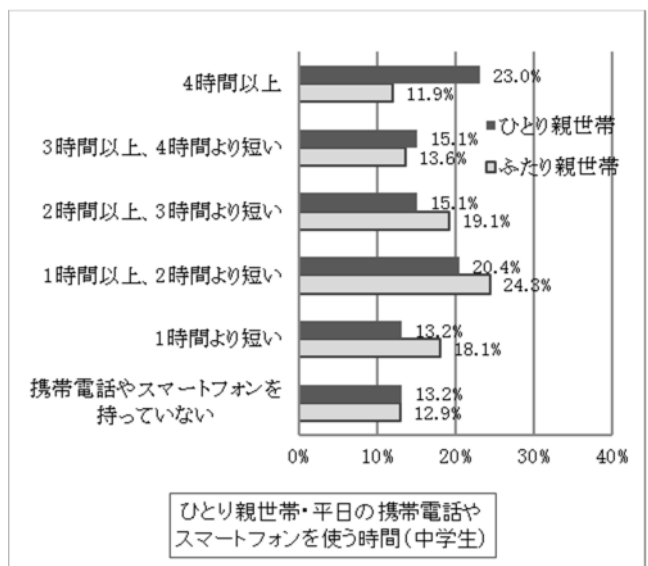
■ あなたは、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォン（タブレットなどを含みます）を使いますか。[本編 p.18. 問 9]



(小学生 N=1506 中学生 N=1082)



(相対的貧困層 N=109 それ以外 N=851)



(ひとり親世帯 N=152 ふたり親世帯 N=896)

学習と習い事

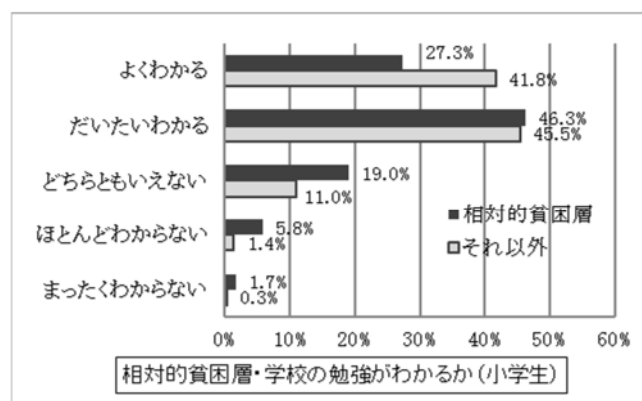
学校の勉強がわかるかどうかについては、小学生、中学生ともに「よくわかる」「だいたいわかる」を合わせた「わかる」という回答が多いですが、小学生に比べると中学生ではその割合が低くなっています。また、相対的貧困層の小学生、中学生ともに「わかる」という回答の割合が「それ以外」に比べて低くなっており、「わからない」という回答の割合が高くなっています。

学校の授業時間以外の勉強時間は、小学生、中学生ともに「1時間以上、2時間より短い」が3割を超えもっとも多いですが、1時間未満の人も小学生、中学生ともに4割を超えています。相対的貧困層ではその割合がさらに高くなっています。

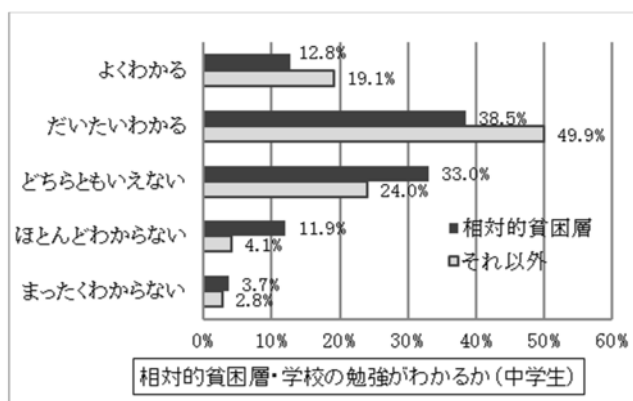
「落ち着いて勉強できる場所」があるという回答は、小学生、中学生ともに全体では7割を超えていますが、相対的貧困層ではその割合が低くなっています。また、「持っていないしほしくない」という回答が、相対的貧困層では、小学生、中学生ともに比較的多いことがわかります。

習い事の中でもっとも多いのは、小学生では「スポーツ」で、続いて「学習塾・進学塾」「絵画・音楽・習字などの習い事」「英会話・そろばんなどの習い事」の順になっています。中学生では「学習塾・進学塾」がもっとも多く、2人に1人は通っており、「学習塾・進学塾」以外の回答の割合は総じて低いことがわかります。

■ あなたは、学校の勉強がよくわかりますか。[本編 p. 26. 問 12]

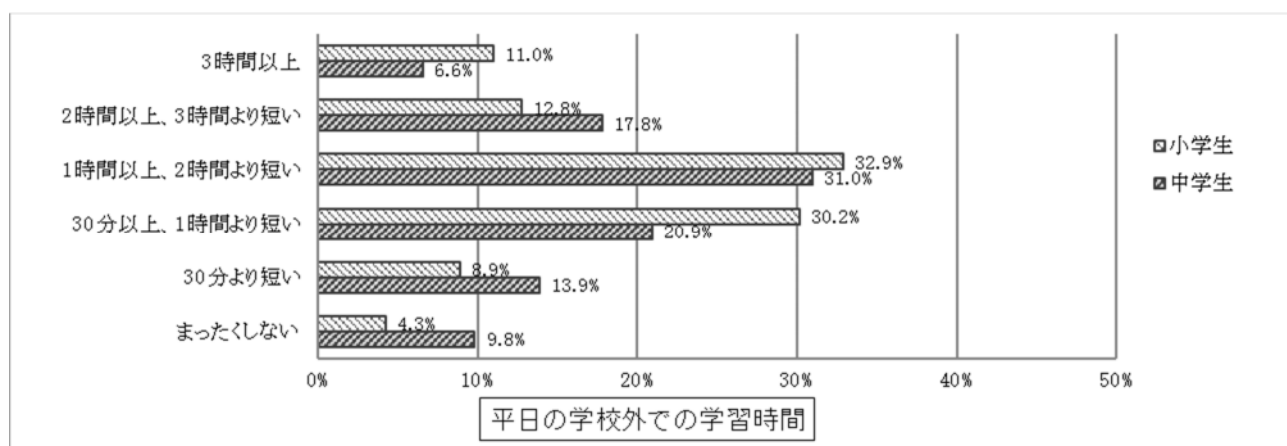


(相対的貧困層 N=121 それ以外 N=1235)

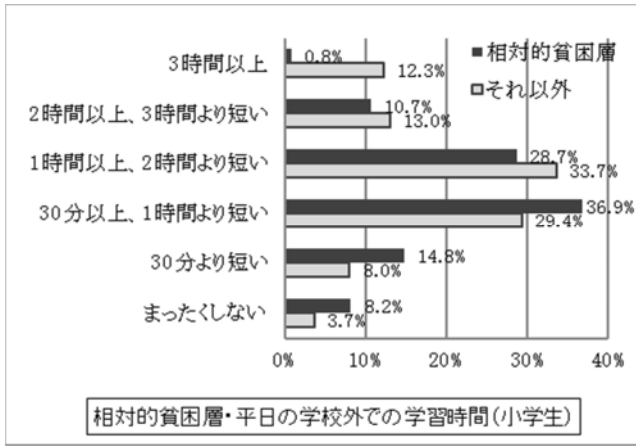


(相対的貧困層 N=109 それ以外 N=853)

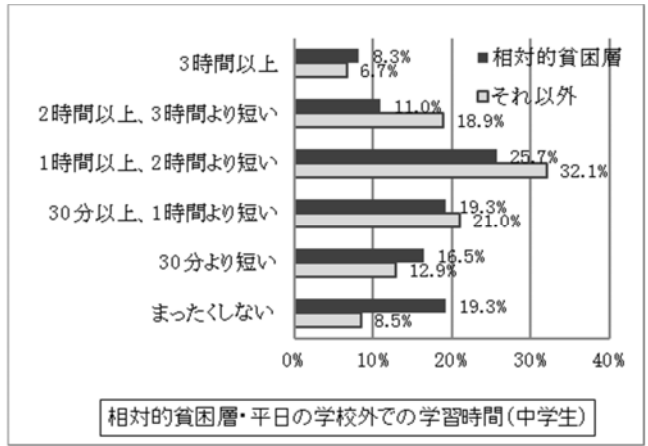
■ あなたは、ふだん（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に、1日あたりどのくらいの時間勉強しますか（塾や家庭教師の時間も含みます）。[本編 p. 16. 問 7]



(小学生 N=1504 中学生 N=1079)

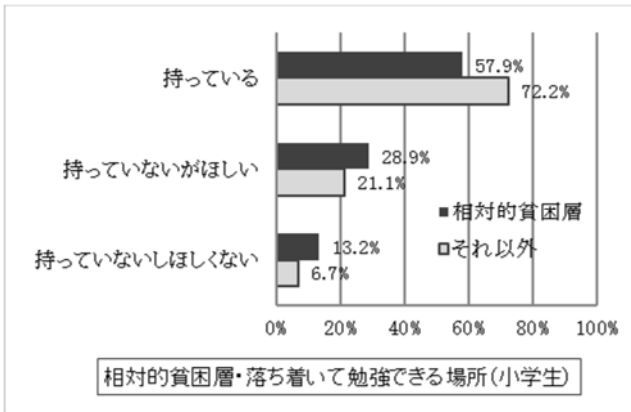


(相対的貧困層 N=122 それ以外 N=1224)

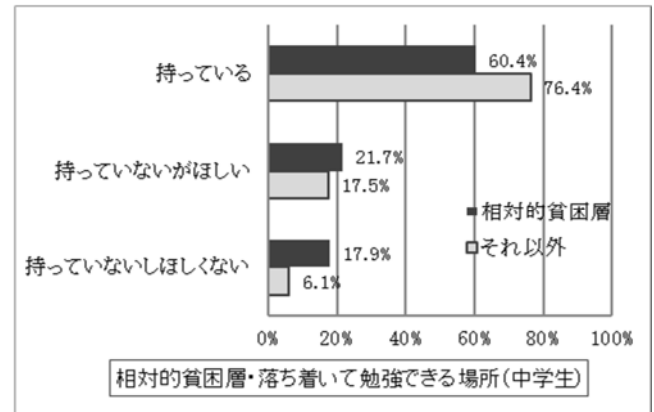


(相対的貧困層 N=109 それ以外 N=848)

■ 落ち着いて勉強できる場所 [本編 p. 42. 問 20④ 小学生は問 18④]



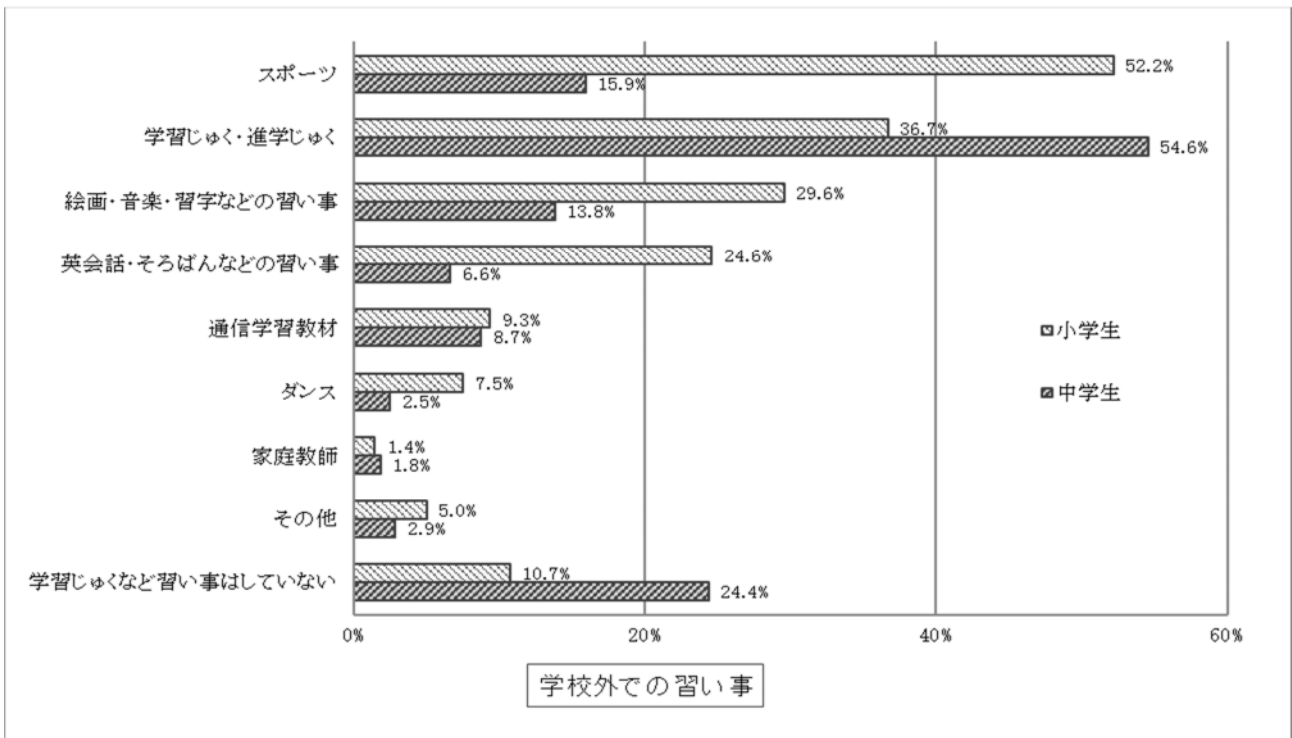
(相対的貧困層 N=121 それ以外 N=1227)



(相対的貧困層 N=106 それ以外 N=850)

■ あなたは、学習塾や家庭教師、スポーツクラブなどに通っていますか (あてはまるものすべて選択)

[本編 p. 45. 問 22-(1) 小学生は問 20-(1)]

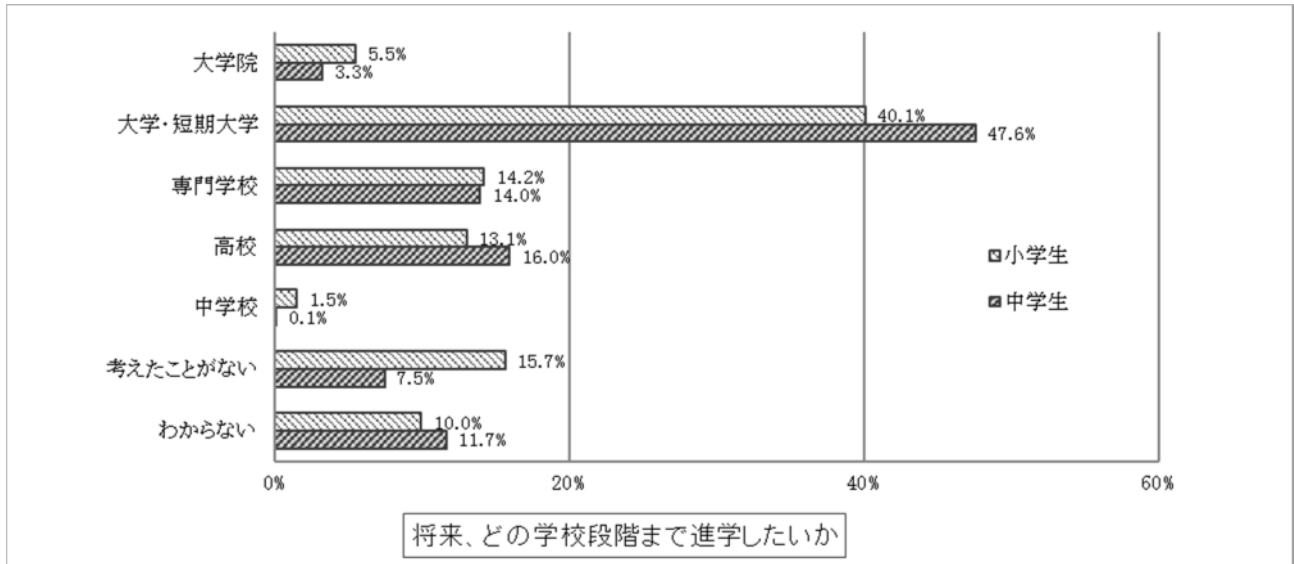


(小学生 N=1521 中学生 N=1087)

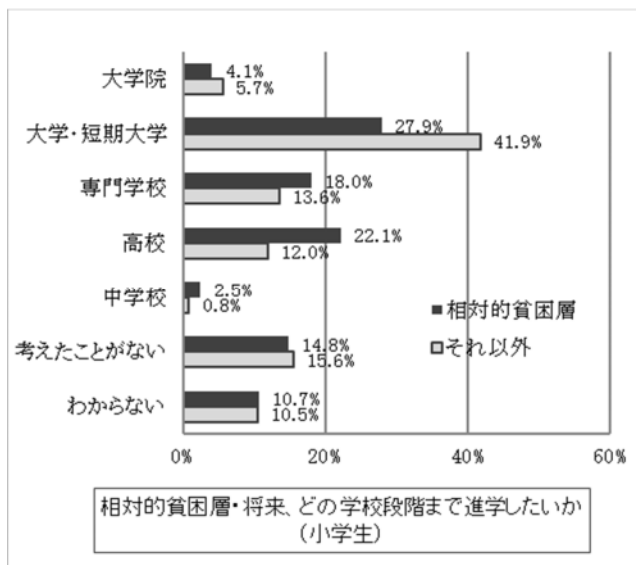
希望する学歴

将来どの学校まで行きたいかという進学希望については、小学生、中学生ともに、「大学・短期大学」という回答がもっとも多く、相対的貧困層では、小学生、中学生ともに、「大学・短期大学」への進学希望の割合が明らかに低く、「それ以外」と比べて大きな開きがあります。中学生では、「高校」という希望が「大学・短期大学」をわずかながら上回っています。

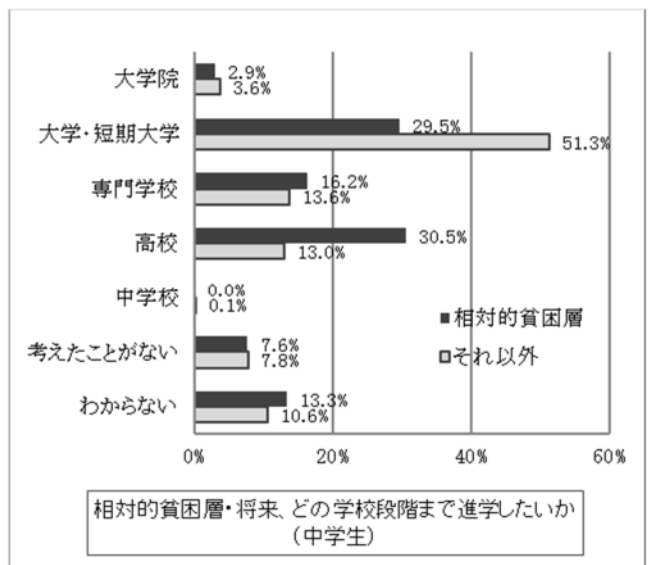
■ あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。[本編 p. 51. 問 25 小学生は問 23]



(小学生 N=1476 中学生 N=1046)



(相対的貧困層 N=122 それ以外 N=1201)

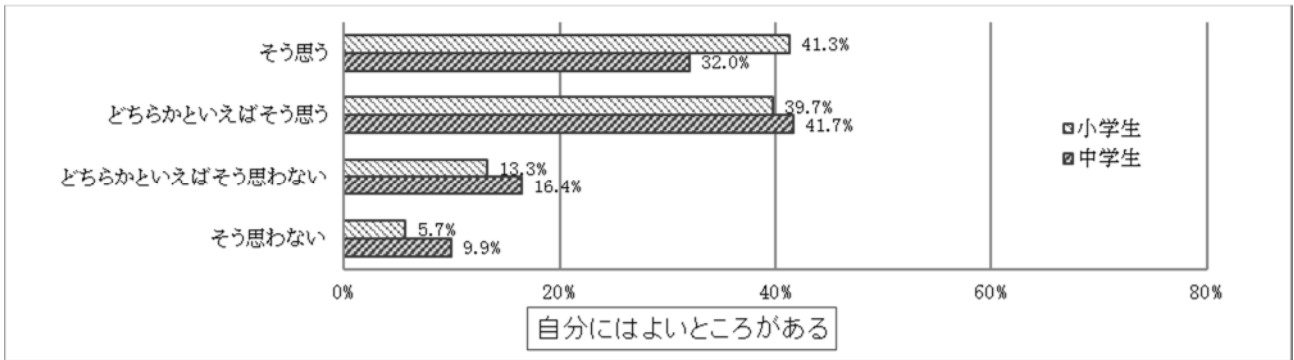


(相対的貧困層 N=105 それ以外 N=823)

自己肯定感

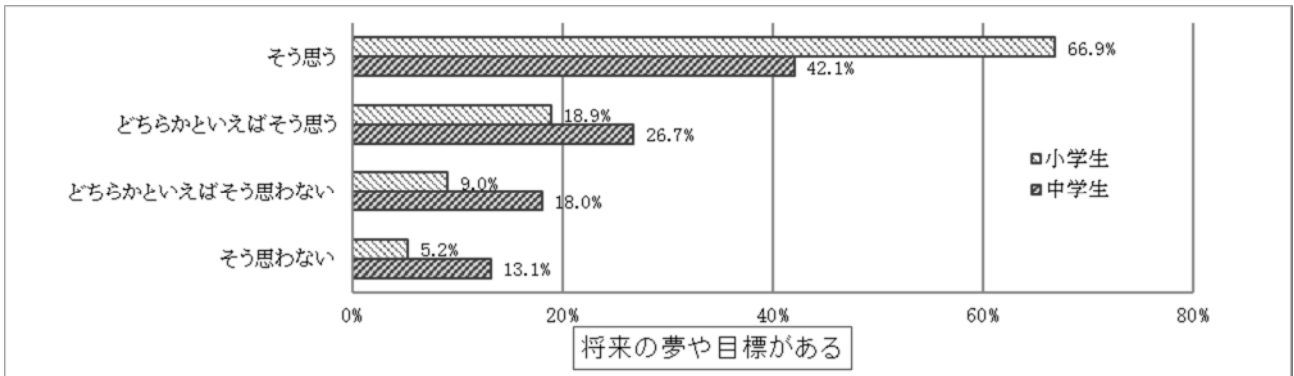
「自分にはよいところがある」「自分には将来の夢や目標がある」「がんばれば、いいことがある」という質問では、肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が、小学生では8～9割、中学生では7～8割を占めており、否定的な回答（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）を大きく上回っています。肯定的な回答の割合はどの質問でも、中学生が小学生よりも低くなっています。

■ 自分にはよいところがある [本編 p. 53. 問 26① 小学生は問 24①]



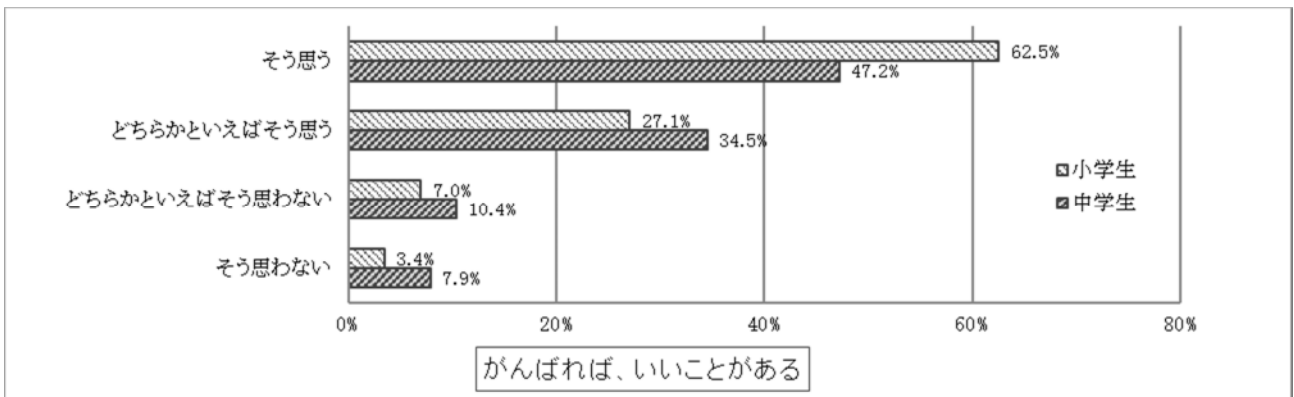
(小学生 N=1507 中学生 N=1078)

■ 自分には将来の夢や目標がある [本編 p. 53. 問 26② 小学生は問 24②]



(小学生 N=1509 中学生 N=1081)

■ がんばれば、いいことがある [本編 p. 54. 問 26③ 小学生は問 24③]



(小学生 N=1508 中学生 N=1077)

Ⅲ 保護者調査の結果

子どもとの関わり、子どもへの関心と期待

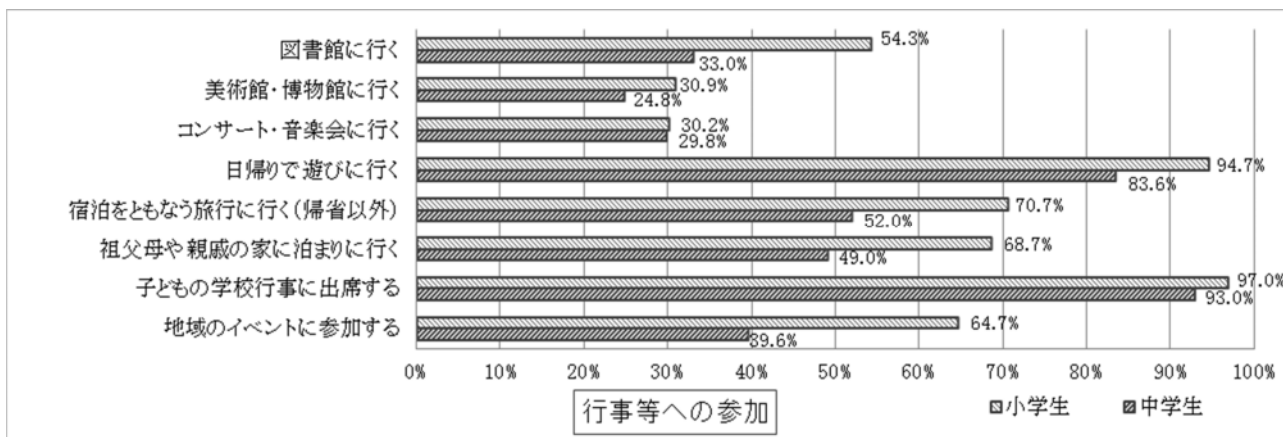
保護者の各種行事への参加について見れば、子どもの学校行事や日帰りで遊びに行く割合は高いですが、小学生に比べて中学生では保護者の参加が全般的にやや低いことがわかります。

「子どもに希望する最終教育段階」は、小学生、中学生の保護者ともに「大学」がおよそ6割を占めています。相対的貧困層の保護者では「それ以外」に比べて「大学」の割合が低くなり、「高校」の割合が高くなって、両者の開きはかなり小さくなっています。

「学歴が低いと将来希望する職業につけない」と考える保護者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、以下の項目でも同じ）は9割近くに上ります。また、そのために「他のことを我慢しても子どもの教育にお金をかけた方がよい」と考える保護者も7割近いことがわかります。

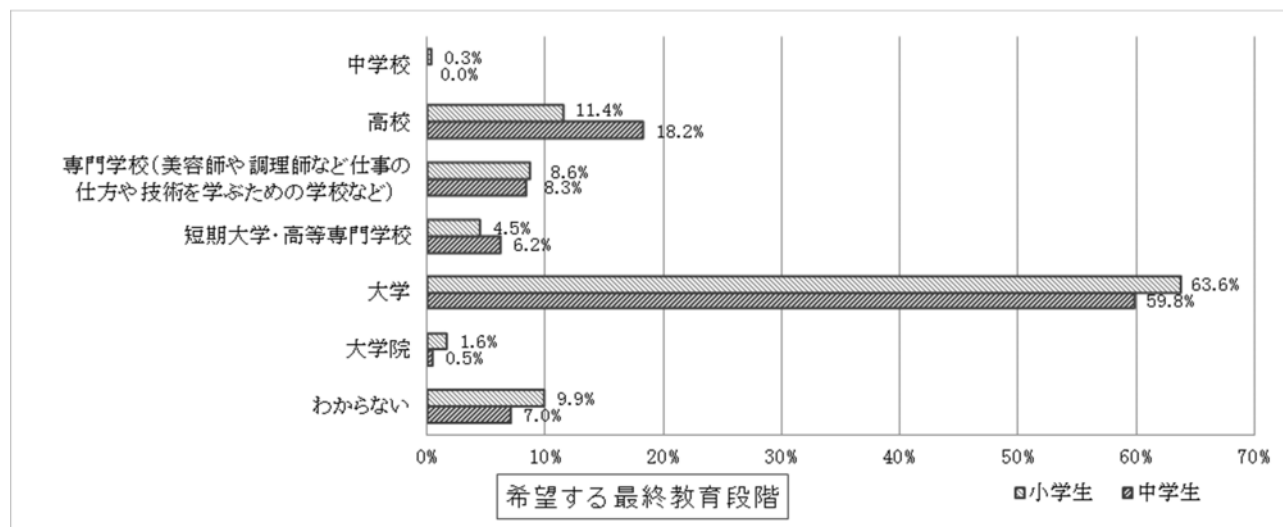
「勉強することでいろいろな考えを身に付けることができる」と考える保護者は9割を超えており、保護者をもつ教育への期待は、ただ学歴を得ることにとどまらず、いろいろな考えを身に付けることにあることがわかります。

■ 保護者の各種行事への参加（複数回答） [本編 p. 72. 問 12]

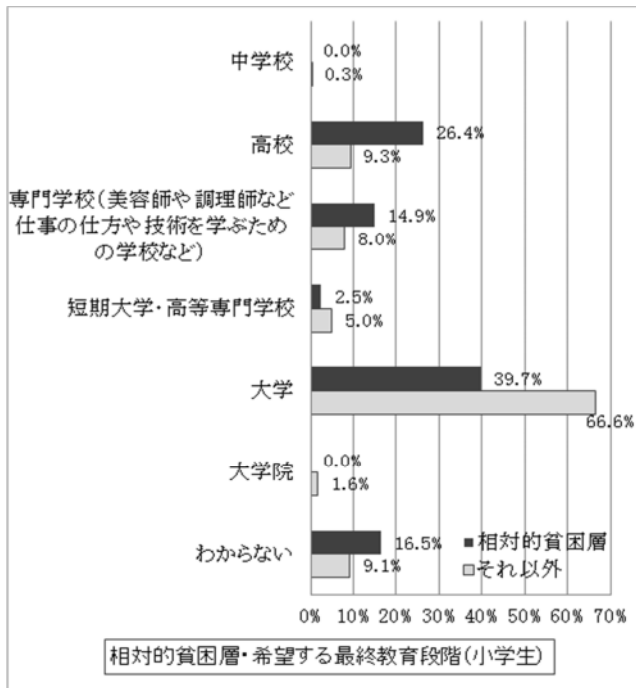


(小学生 N=1522 中学生 N=1089)

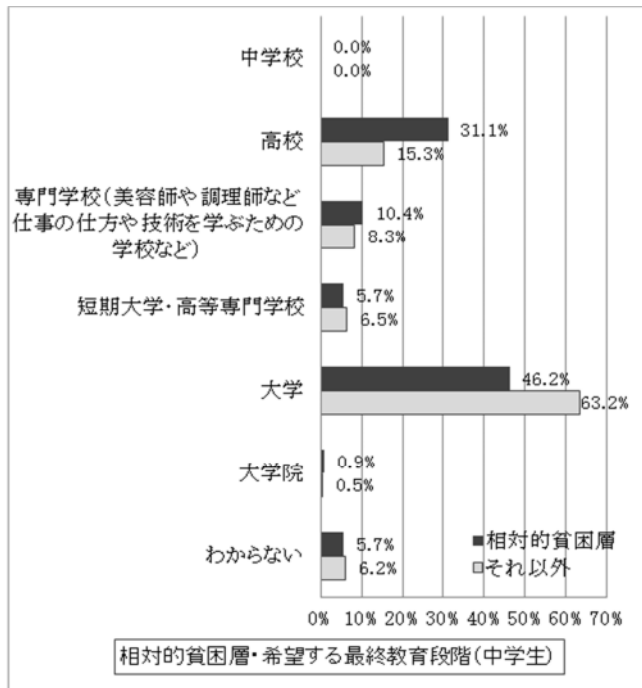
■ あなたは、お子さんの進学について、どこまで希望されていますか。 [本編 p. 79. 問 15(1)]



(小学生 N=1503 中学生 N=1069)

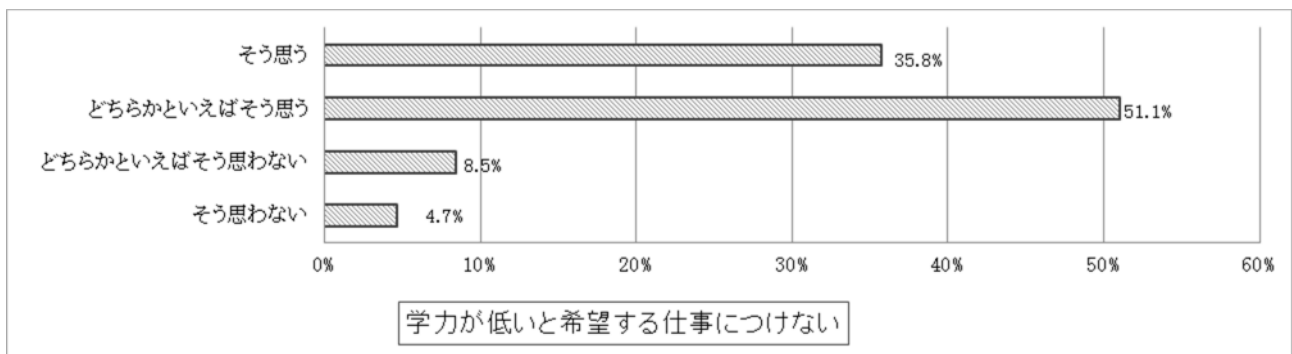


(相対的貧困層 N=121 それ以外 N=1228)



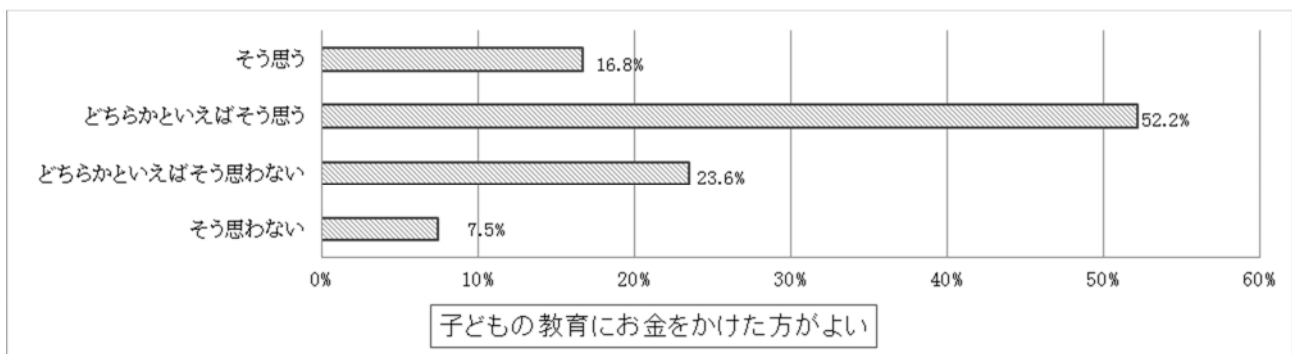
(相対的貧困層 N=106 それ以外 N=843)

■ 学歴が低いと将来希望する職業につけない [本編 p. 81. 問 16①]



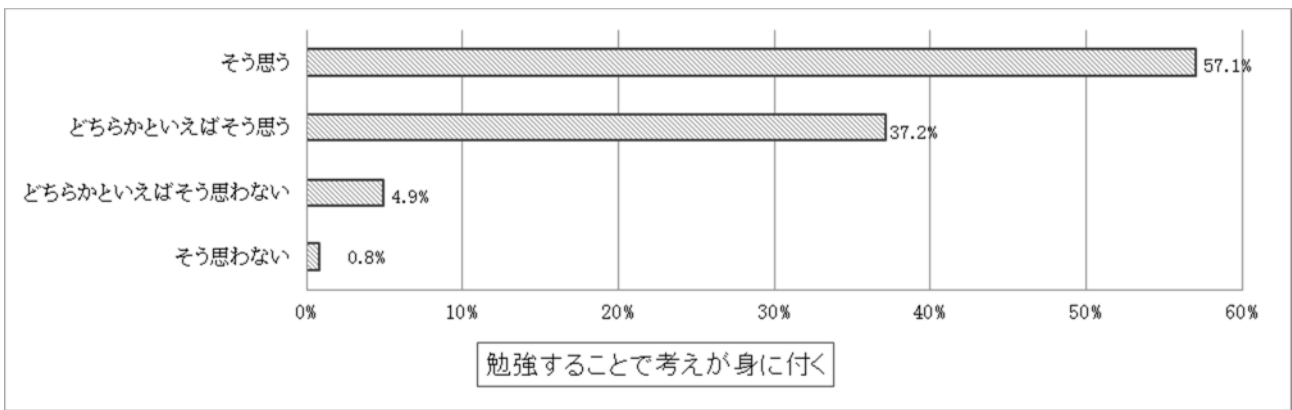
(N=2606)

■ 他のことを我慢しても子どもの教育にお金をかけた方がよい [本編 p. 81. 問 16②]



(N=2602)

■ 勉強することでいろいろな考えを身に付けることができる [本編 p. 82. 問 16③]



(N=2604)

保護者自身のこと

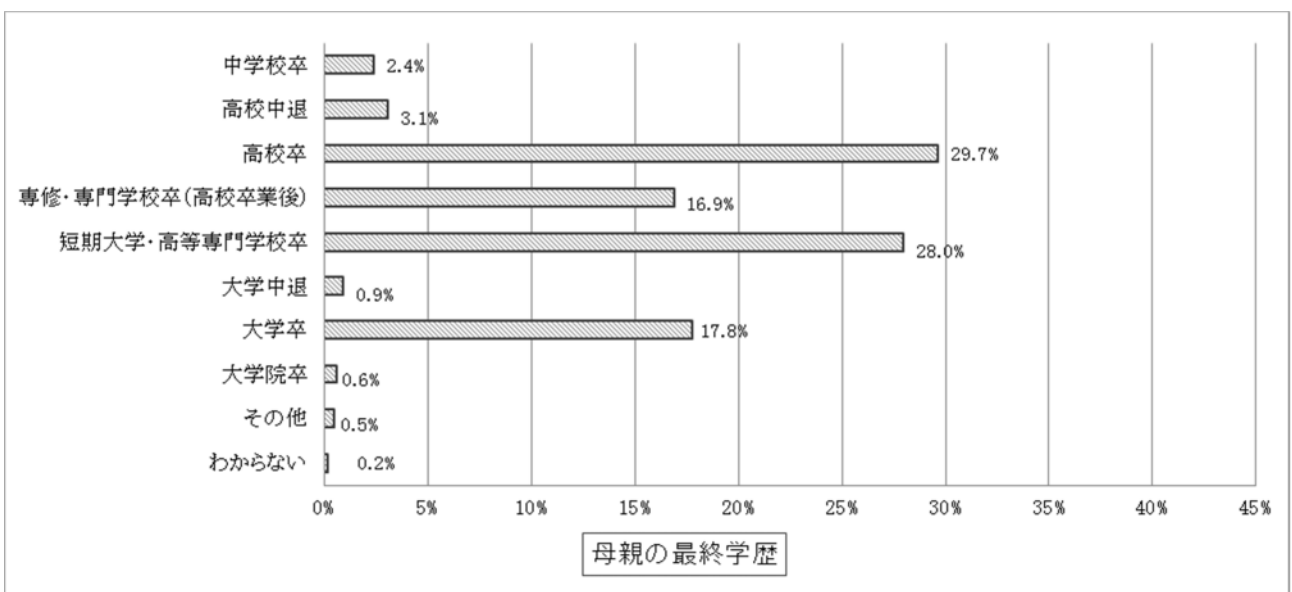
保護者の最終学歴について見れば、母親では「高校卒」がもっとも多く、父親では「高校卒」と「大学卒」がほぼ同じ割合です。父親の学歴が高く、大学卒の割合は3割を超えており、母親よりも15ポイント以上高くなっています。相対的貧困層では、父親と母親ともに、「中学校卒」と「高校中退」の合計が「それ以外」に比べて明らかに高いことがわかります。

困ったときの相談相手では、小学生、中学生の保護者ともに回答の多いものから「配偶者・パートナー」、「自分の親」、「近隣に住む知人や友人」、「きょうだい・親戚」の順になっています。全体として、中学生の保護者は小学生の保護者に比べて、相談相手がやや少ない傾向が見られます。

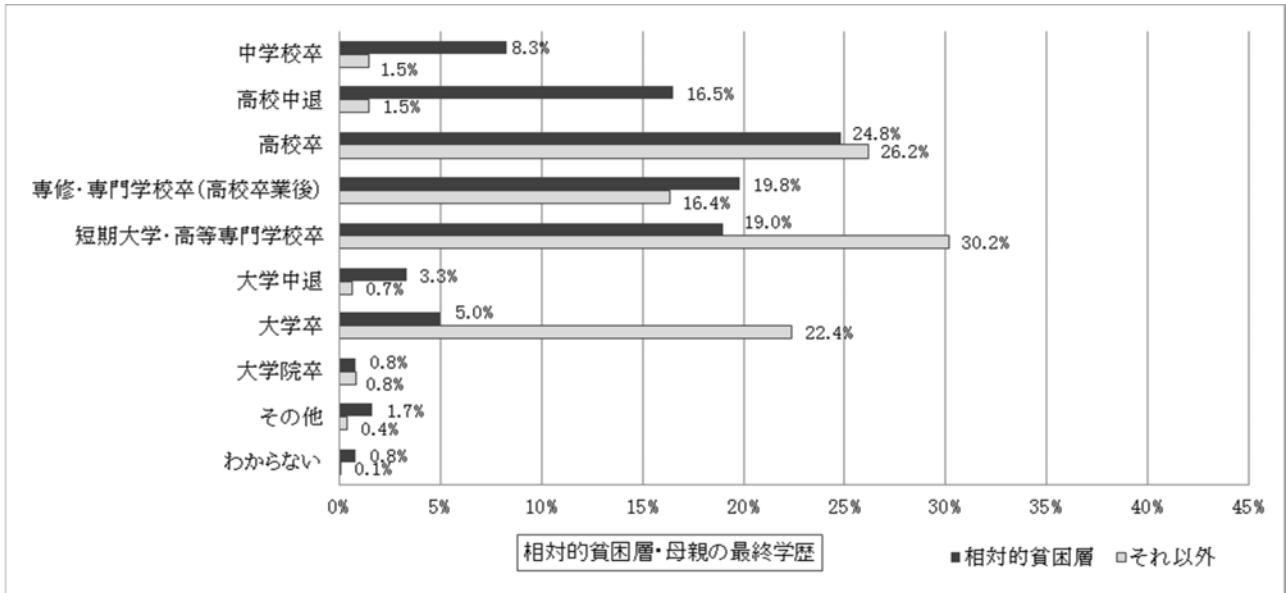
自分の体や気持ちで「とくに気になることはない」という回答の割合は14~15%であり、8割以上の保護者が何らかの体や心に関して気になることがあるという結果です。小学生、中学生の保護者とも、気になることが多岐にわたっており、複数の項目を選んだ保護者が少なくないことがわかります。

■ このアンケートを持ち帰ったお子さんの母親が最後に通った(または在学中の)学校をお答えください。

[本編 p. 63. 問 8-1]

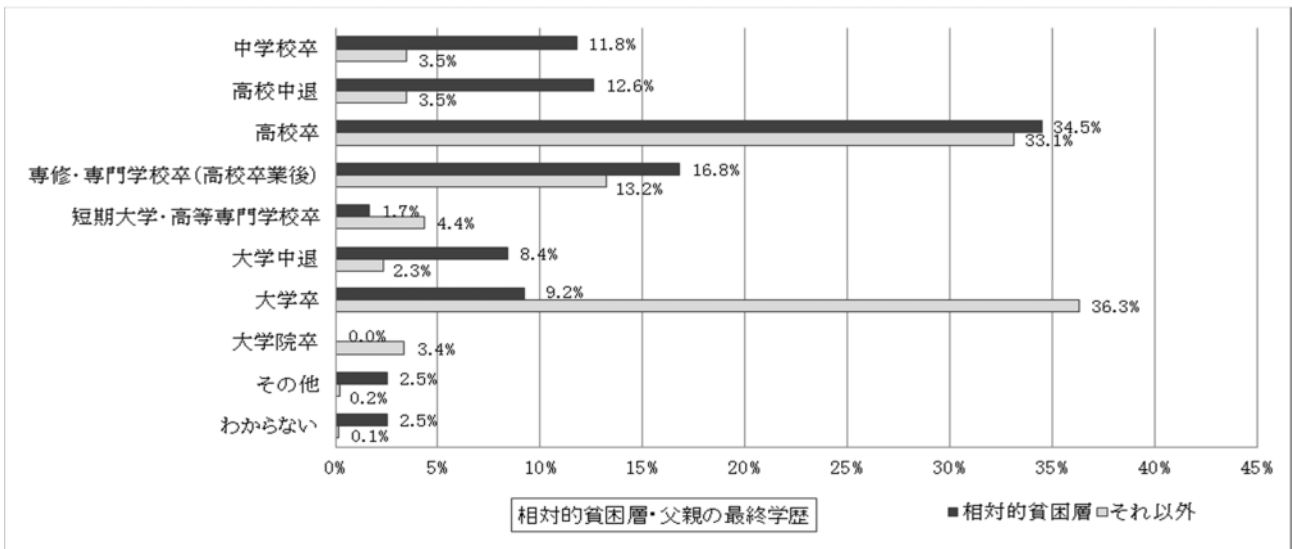


(N=2567)

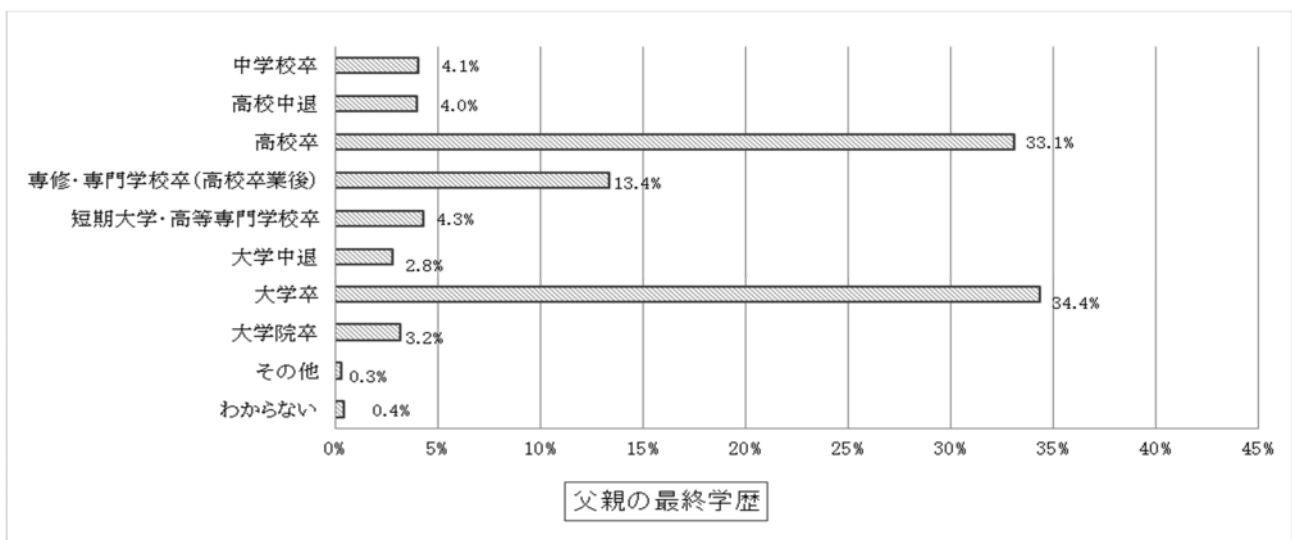


(相対的貧困層 N=227 それ以外 N=2070)

■ このアンケートを持ち帰ったお子さんの父親が最後に通った(または卒の)学校をお答えください。
[本編 p. 64. 問 8-2]



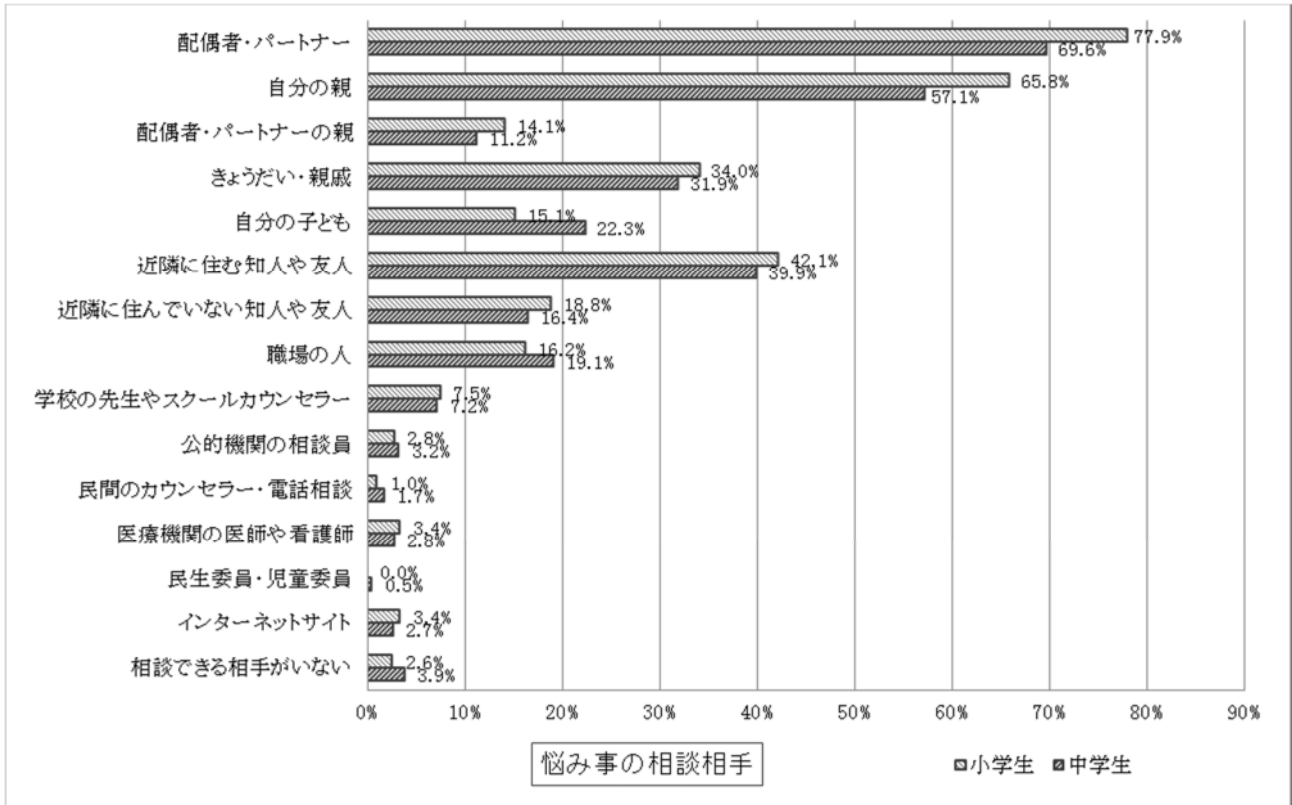
(N=2374)



(相対的貧困層 N=119 それ以外 N=2016)

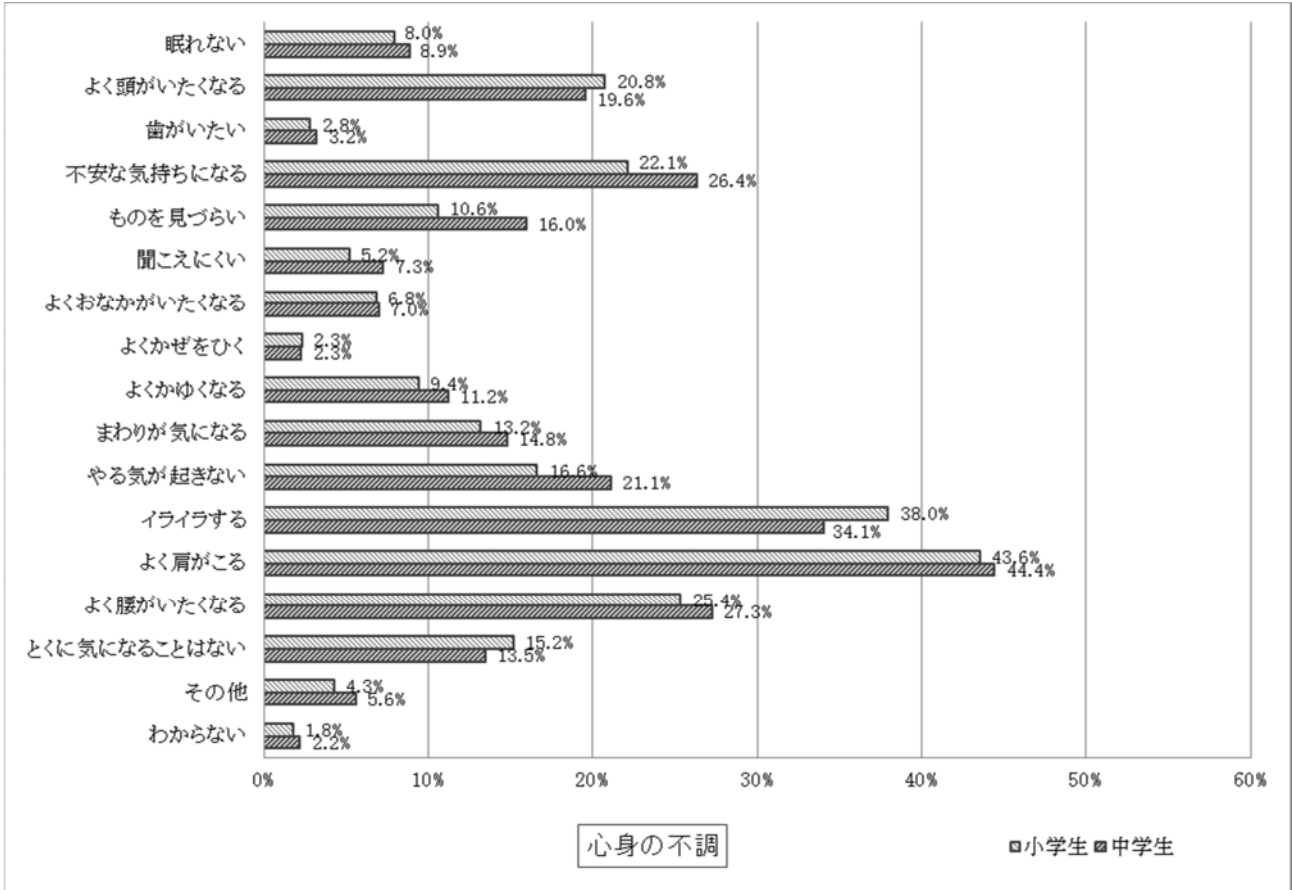
■ あなたには、本当に困ったときや悩みがあるとき、だれに相談しますか（複数回答）

[本編 p. 91. 問 19]



(小学生 N=1522 中学生 N=1089)

■ あなたは、自分の体や気持ちで気になることはありますか。（複数回答） [本編 p. 99. 問 23]



(小学生 N=1522 中学生 N=1089)

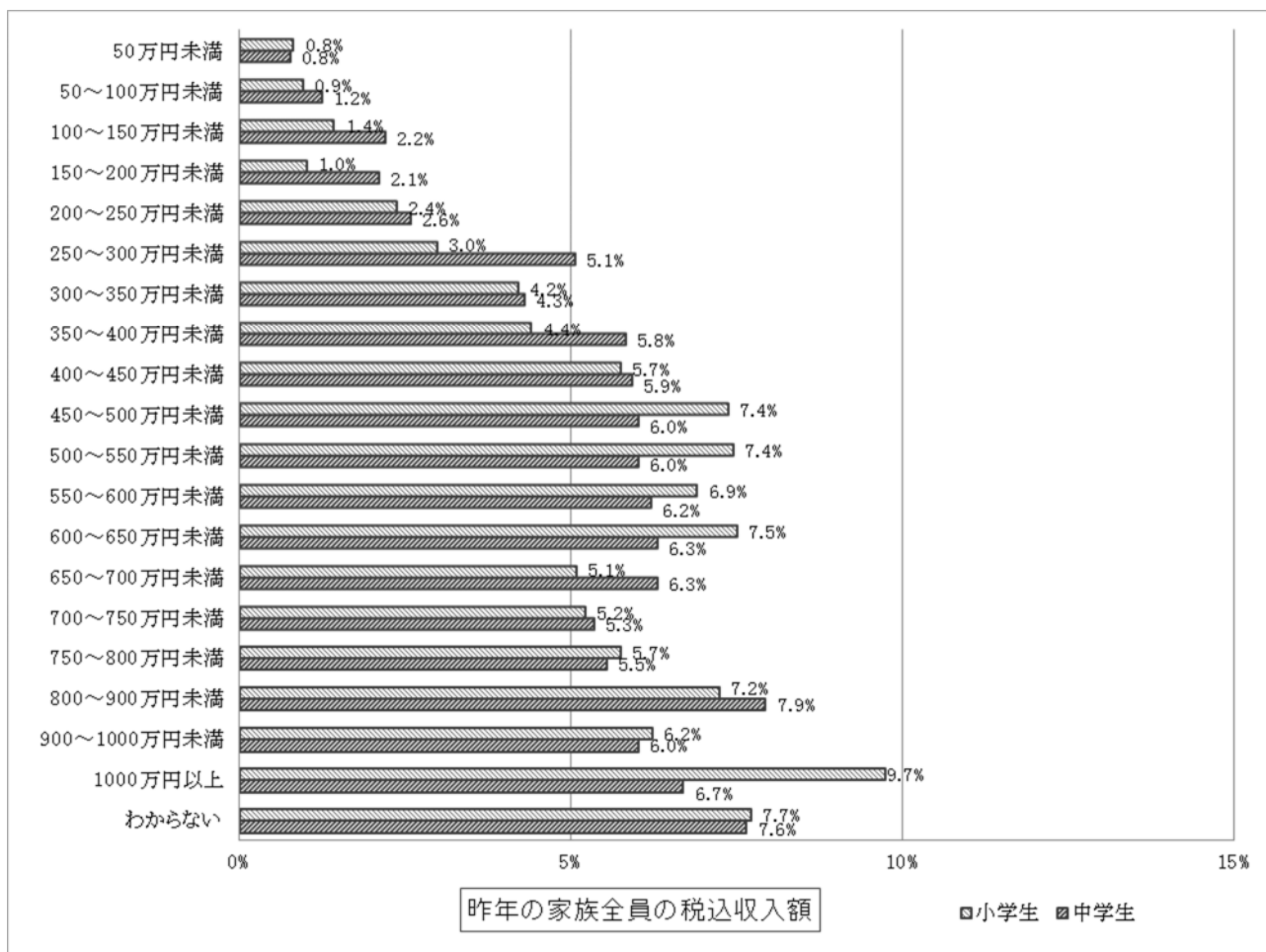
家庭の経済状況

家族全員の収入の合計額は、50万円未満から1000万円以上までのいずれの区分でも1割を超えることがなく、高収入から低収入まで幅広い分布を示しています。年収900万円を超える家庭が小学生、中学生ともに1割を超えている一方、300万円未満の家庭も、小学生、中学生ともに1割前後います。

家庭の経済状況では、「貯蓄ができて」「赤字でも黒字でもない」「赤字である」に三分されています。相対的貧困層では、「赤字である」が小学生の保護者で約5割、中学生の保護者で約6割に達しています。

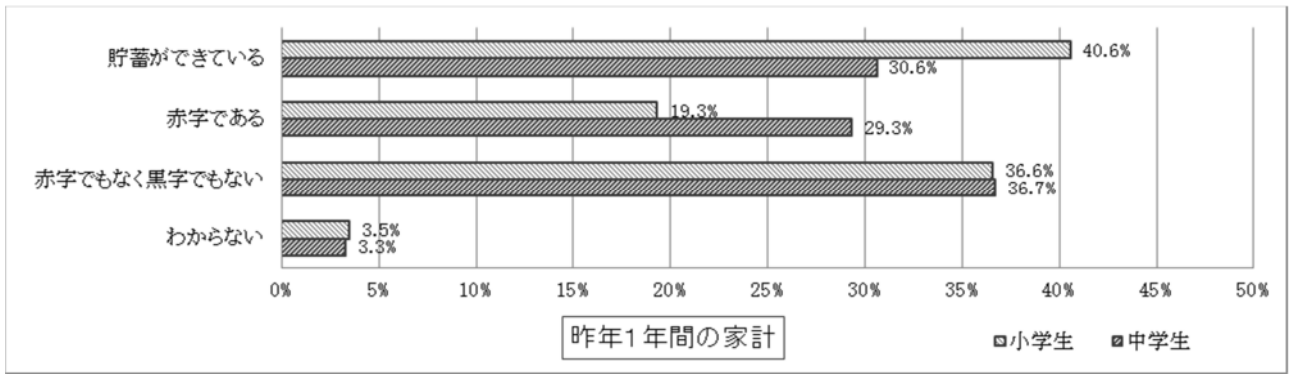
経済的な理由で経験したこととして、もっとも多い回答は小学生、中学生の保護者ともに「趣味やレジャーの出費を減らした」で、特に注目されるのは、「食費を切りつめた」が中学生の保護者の回答で第2位（小学生では第3位）になっていることです。全体的に中学生の保護者に節約の度を強める傾向が見られます。

■ ご家庭の経済状況についてうかがいます。昨年(平成28年)1年間の、家族全員の収入の合計額は、税込みでおおよそいくらでしたか。 [本編 p.114. 問28]

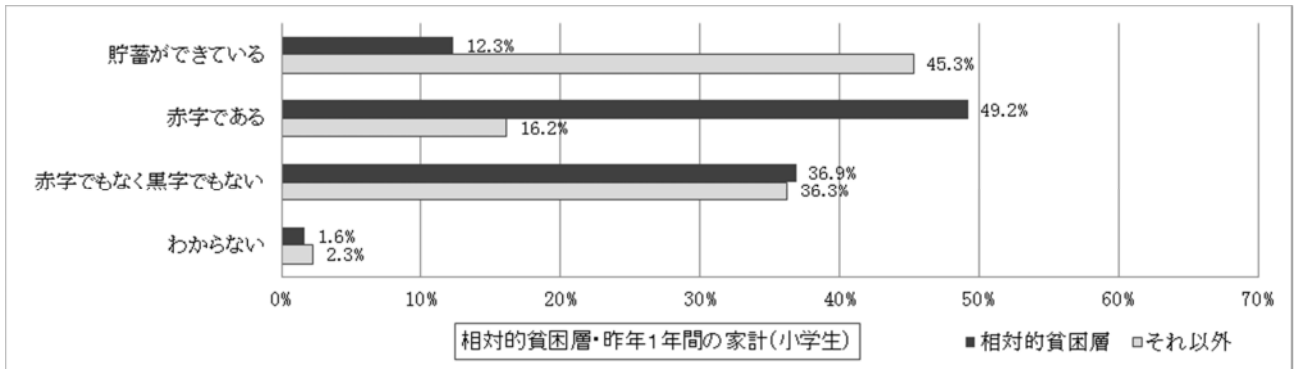


(小学生 N=1479 中学生 N=1047)

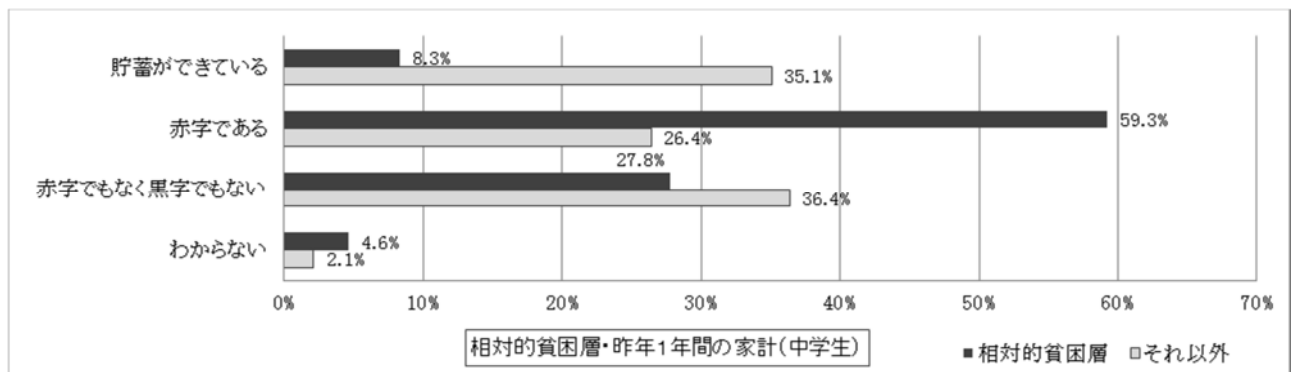
■ 昨年（平成 28 年）1 年間のあなたの家計の経済状況についておたずねします。[本編 p.102. 問 24(1)]



(小学生 N=1513 中学生 N=1084)

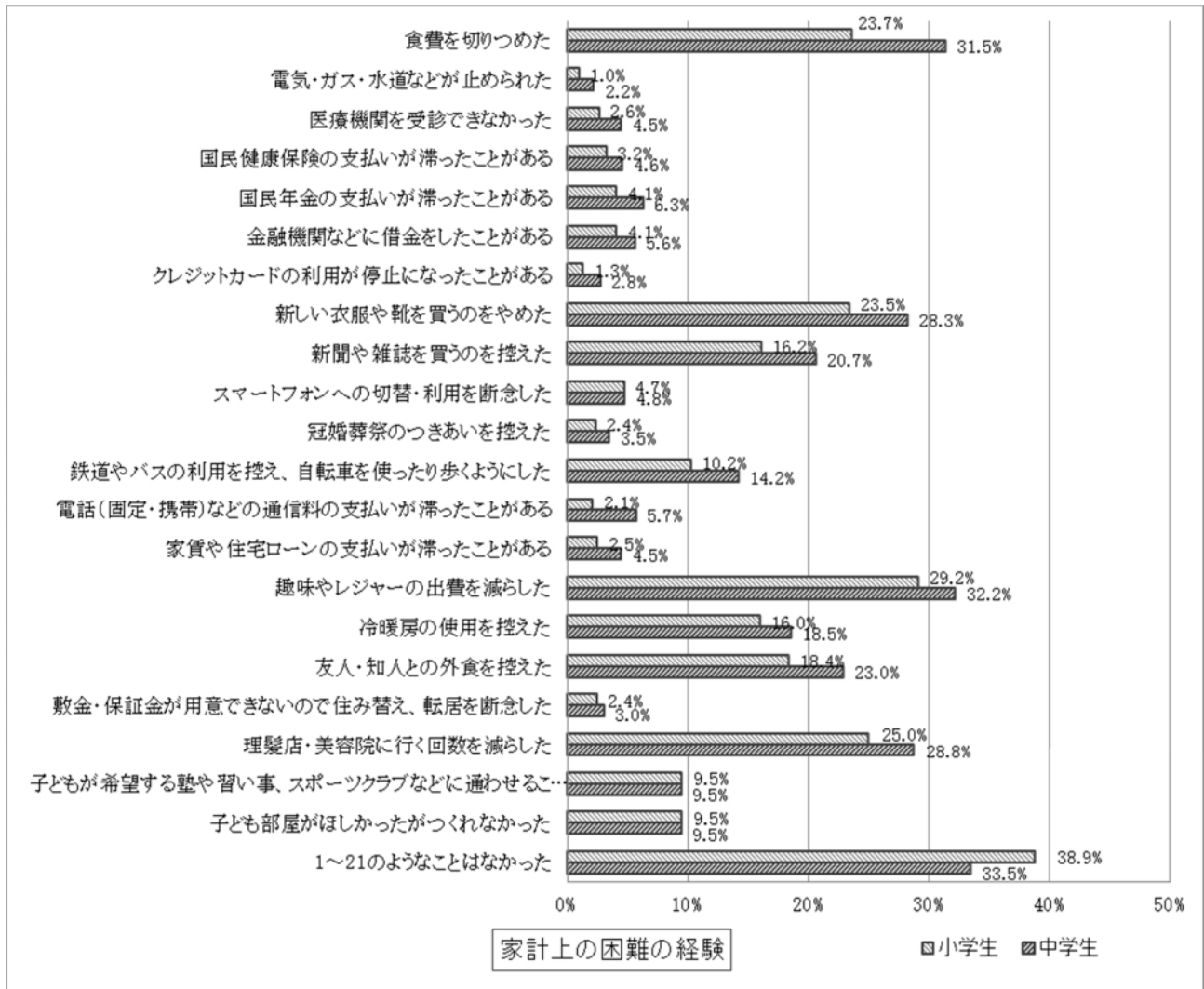


(相対的貧困層 N=122 それ以外 N=1238)



(相対的貧困層 N=108 それ以外 N=855)

■ あなたのご家庭では、昨年(平成28年)1年間に経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。(複数回答) [本編 p.105.問26]



(小学生 N=1522 中学生 N=1089)

IV 分析結果の考察

子ども調査の結果と保護者調査の結果、および両者の関連に基づいて、尼崎市の子どもの生活の実態と意識に見られる傾向や特徴の中で特に注目すべきこと、また、今後の子ども・家庭支援につながる検討課題となると考えられることを取り上げます。

そのために、本調査の結果を、可能な限りにおいて全国的な調査の結果と比較します。全国状況を把握するために参照する調査は次の2つです。まず、文部科学省と国立教育政策研究所によって小学校6年生と中学校3年生を対象に毎年4月に行われている全国学力・学習状況調査の中の質問紙調査の結果です。もう1つは、直近のデータではありませんが、中学3年生とその保護者を対象に、内閣府が平成23年に実施した「親と子の生活意識に関する調査」の結果です。この2つの調査では、本調査の質問項目とまったく同じものや、表現に多少の違いはあっても趣旨が同じものが含まれています。

なお、この考察は概要版で取り上げた質問項目以外の結果も踏まえています。

1. 子ども調査の結果から

- (1) 就寝時間がやや遅く、規則正しい生活がやや弱い
- (2) 携帯電話やスマートフォンを所有している割合が高い
- (3) テレビ・ゲーム・スマートフォンにかける時間が長い
- (4) 1日あたりの学習時間が短い
- (5) 学校の勉強がわからない中学生の割合が比較的高い
- (6) 相対的貧困層やひとり親世帯の中学生は部活動への参加の度合いが低い
- (7) 子どもが家族と一緒にする文化的な活動が乏しい
- (8) 大学程度の教育を希望する子どもの割合が低い
- (9) 自己肯定感の高さは小・中学生ともに全国平均に比べて同程度である
- (10) ひとり親世帯の小学生、中学生の状況を踏まえた支援のあり方を考えることが必要である

2. 保護者調査の結果から

- (1) 困ったときの相談相手がない保護者、不安な気持ちになる保護者への支援のあり方の検討が必要である
- (2) 子どもの教育を重視する保護者の割合は全国平均に比べて同程度である
- (3) 保護者の子どもに希望する学歴は、子どもの学力に関連している
- (4) ひとり親世帯の保護者の状況を踏まえた支援のあり方を検討することが必要である

尼崎市子どもの生活に関する実態調査 結果報告書（概要版）

平成30年3月発行

編集：尼崎市 ども青少年本部事務局 ども政策課

〒660-8501 尼崎市東七松町1丁目 23 番1号

TEL:06-6489-6341 FAX:06-6489-6373

HP: <http://www.city.amagasaki.hyogo.jp>